

“自分らしく”暮らしたい。

慌ただしく過ごす日々の生活。

生きづらさを感じていませんか。

自分らしさを見失っていませんか。

ここ尾花沢は、穏やかで、優しい人ばかり。

ゆったりと、ゆるやかに時が流れています。

きっと、自分らしさを取り戻せるでしょう。



おばなざわって、どんなまち？

山形県の最北東にある尾花沢、このまちの魅力とは？まずは3つ、覚えていってください！



夏にほおぼる “至高”のスイカ

獲れたての大玉小玉が産直にゴロゴロ！
一番いいものを一番いい季節に楽しむ！



お祭り！レジャー！ 癒しの湯元！

アウトドアを満喫できる大自然と、暮らしを
彩るイベントやお祭り！
「ちょっとそこまで」感覚の湯処も！



雪とともに生きる国

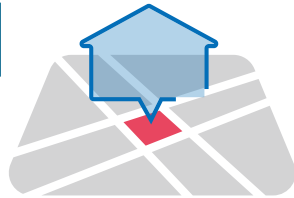
まるで外国!?友達に自慢できるくらいの降雪量
と、雪質が織りなす至上の景観。
「日本三雪の地」尾花沢では、四季の一節を
静かに噛みしめることができます。



おばなざわの“気になる”数字

「東北だから寒いのかな。」「豪雪地って聞いたけどどのくらい降るんだろう?」「家賃ってどれくらいかな?」などなど、そんな疑問にお答えすべく、尾花沢での暮らしや住まいに関係する主なデータをピックアップしました。

土地価格



【目安】

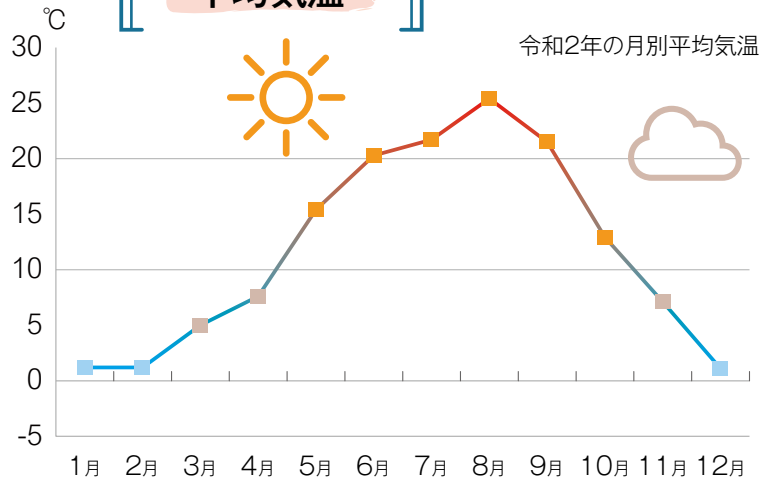
市役所周辺、
国道沿い **40,000円～65,000円**
(宅地/坪単価)

市街地 **30,000円～**
(宅地/坪単価)

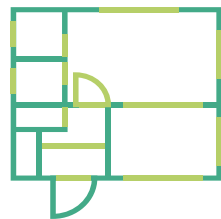
市街地以外 **15,000円～**
(宅地/坪単価)

(定住応援課 調べ)

平均気温



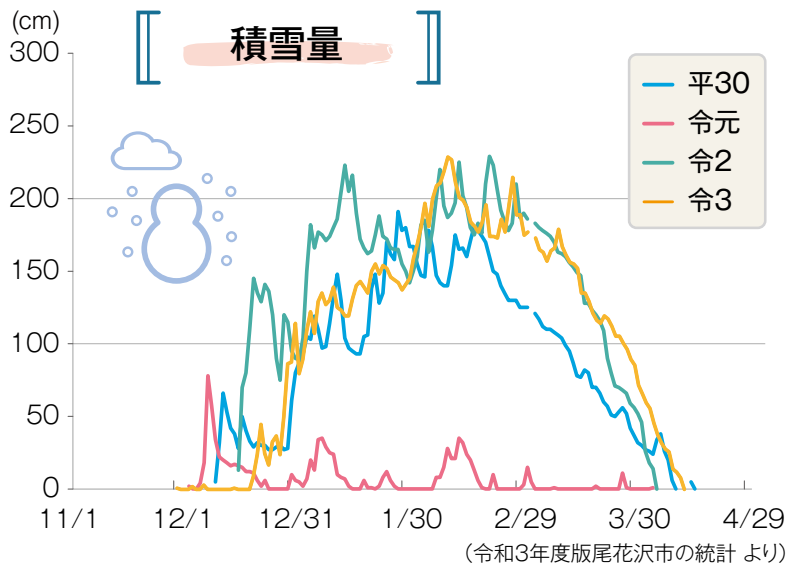
家賃相場



1K	30,000円～45,000円
1LDK	46,000円～55,000円
2DK	50,000円～55,000円
2LDK	58,000円～65,000円
3LDK	50,000円～60,000円
借家	30,000円～60,000円

(定住応援課 調べ)

積雪量



産業別就業者数

【就業者人口：8,995人】

その他 10人

第三次産業 4,166人

第一次産業 1,993人

第二次産業 2,826人

医療、福祉や宿泊業、小売業などで多くの人が働いています。

米、スイカ、そばなど、多くの農産物を生産しています。夏スイカの生産量は日本一！その他、肉牛の肥育も盛んに行われています。

約35%が建設業、約65%が製造業。

(令和3年度版尾花沢市の統計より)

おばなざわ AREA MAP



福原地区

市の北西に位置する地区です。JR北大石田駅、芦沢駅に近いほか、国道にも沿っているため、車でさっと隣町（大石田町、舟形町）まで出掛けられます。

近年、手作りのユニークなかかしづくりに地域ぐるみで取り組むほか、シーズンを迎えると美しい田んぼアートも作成するなど、その時々でチャレンジングな活動に盛り上がっています。



尾花沢地区

「雪とすいかと花笠のまち尾花沢」の中心地区で、市役所やスーパー、ドラッグストアなど生活に便利な施設がコンパクトにまとまっている市街地です。

芭蕉十泊の町としても知られ、県内外から多くの方が芭蕉、清風歴史資料館を訪れます。

市民の憩いの場にもなっている「花笠踊り発祥の地 徳良湖」もあり、各種イベントや尾花沢まつりなどが開催される賑わいのある地区でもあります。





宮沢地区

市内北東部、最上町と峠を挟んで隣接するエリアです。元禄2年(1689年)、俳聖松尾芭蕉と門人の曾良は、最上町より「おくのほそ道」の山刀伐峠を越えて尾花沢にやってきた歴史的な道として知られています。丹生川の下流には優良な農地が広がり、棚田風景が広がっています。翁山を始めとした貴重な自然資源を有しています。



玉野地区

市内東部に位置する、田園と山々に囲まれたエリアです。国道347号を通じ宮城県加美町と隣接し、フライングシューズ大会など加美町との交流事業が盛んに行われています。

やまがた百名山にも認定されているニツ森は、気軽に登れ、絶景を堪能できることから、県内外から多くの登山者が訪れます。

子供たちを中心としたハイキングや川遊び・BBQなどのイベントも毎年開催されています。



常盤地区

市内南東部に位置し、御所山、御堂森、大平山を背に国史跡延沢城の城下町として三日町、九日町の町並みが見られる歴史文化遺産豊かな地です。東京都板橋区桜川地区との「林間学校」交流や、花笠高原でスキーやスノーボードが楽しめ、雄大な自然を体感できます。

鶴子、細野は移住者も多く、トレッキングや山菜採り、体験イベント交流が盛んで、アットホームな人とのつながりが魅力的です。



移住者インタビュー

おばなざわ暮らし、どうですか？



- 01 -

移住者プロフィール

鎌田 榮一さん
恵さん
令和4年8月に移住

— 退職した後に何もできない、そんな生活だけは送りたいかと思っていました —

榮一：尾花沢市に来る前は、主に宮城県で建設関係の仕事をしていました。その頃から近所のおじいちゃん、おばあちゃんを見ていると、どこにも行かずに家の中に閉じこもっているんですね。

自分自身だったら、退職した後に何もできない、そんな生活だけは送りたいかと思っていました。また、若い時から畑で野菜をつくるのが好きで、アパートの敷地を借りて野菜をつくったりしていました。以前住んでいた場所でも畑を持っていましたが、維持管理が大変だったり、自宅からの移動に時間がかかり過ぎたりで、負担になっていました。NHKの「いいいじゅー!!」やテレビ東京の「BEYOND TOKYO」を見て、移住を選択肢の一つとして考え始めました。そのころはまだ尾花沢市にしようと思っていたわけではなかったです。

— のびのびとした規則正しい生活で、とても健康になりました —

榮一：移住先は、秋田や山形、島根まで範囲を広げて探していました。ただ、子供たちの近くに住むのがいちばんいいかなとまず考えました。探した建屋のポイントは古風で丈夫につくられていること。そして広々とした農地として使える敷地があることでした。退職を機に移住してきたので、こちらではのんびりできており、とてもうれしいです。以前よりも規則正しく健やかな生活を送っています。ストレスを感じる事がなくなり、夜グッスリ寝ることができるようにもなりました。

恵：こちらに来て、毎日身体を動かしたためか、以前はなかなか寝付けなかったのが、夜は9時過ぎには休み、朝は5時過ぎには起きる、そんな生活を送ることができるようになりました。普通に朝昼晩の3食をおいしく食べて、動くことで、自然に体重が落ちるようになった。二人ともとても健康になりました。

— 豪雪地であることは、想定内でした —

榮一：尾花沢で、雪のことを考えないで来る人はまずいないと思いますし、豪雪地であることは想定して来ています。雪が

きれいだし、空気もいいし。そして、雪かき自体は嫌いではないです。時間はかかるけれど結構楽しんでます。

恵：いやだ、いやだと言うことなく、楽しんでやっています。身体にもよくて、前はお金をかけてジムに通っていたけれど、ここではお金をかけなくとも運動できますね。

榮一：尾花沢は津波も地震も洪水も他の地域に比べると少ない土地です。雪は多いけど、自分で捨てれば何とかなる。災害が少ないというのは、尾花沢の大きなアピールポイントだと思いますね。

— やってみたいことが沢山あります —

榮一：春になれば畑などやるが増えていく、それを考えることがとても楽しいです。地域の人にも話しているんですけど、庭の空いているスペースにお花を植えようかと思っているんです。そこに東屋でも作って、地域の人が集まったり、お茶を楽しんだり、会話を楽しんだりするのもいいかなと考えています。そういったコミュニティの場をつくっていきたくて考えています。

恵：移住したばかりの頃のお茶のみの時に手芸をやることを話したら、公民館の作品展に出品することを勧められ、それが評判になり教えてくれと言われるようになりました。初めは区長さんの家を借りて5人が集まり開催しました。今では10人ほど集まるようになり、場所も荒町集会所に移して開催するようになっています。いずれは、手芸のつながりで「荒町ファッショ」を作り上げたいと夢が広がっています。

— みんな働き者でいい人ばかり。そして、空が近いなあ、と思います。 —

榮一：延沢の人たちは高齢者であってもみんな働き者で、畑仕事などで常に身体を動かしていらっやいます。そしていろんな人と語り合い、楽しくコミュニケーションもするので、元気な方が多いんですね。

恵：食べ物がおいしいし、みなさんいい人ばかりでいろんな野菜をいただいています。採れたてなので美味しいですね。

榮一：それに、尾花沢の空はキレイで大好きです。空の色がとてもきれいな色で空気おいしいのです。常に自然を身近に感じられます。なによりも「空が近いなあ」と感じています。延沢は少しずつ高くなっているところがあると地域の方から聞き、実際にそう感じるの、なるほどと思いますね。国道13号を走っていると、山と雪の感じがとてもきれい。絵が好きな人なら絶対に描きたくなくなるはず。なにげない風景だけど、私たちからするととても素晴らしく感じています。

— 地域の方とのつながりを楽しんでほしい —

榮一：「鎌田さんのように自分から声をかけてくれるのはとても助かります」と近所の人から言われます。地域の人たちとのつながりを重荷に感じるのではなく楽しんで、プラスに考え自分から動くことで地域に融けこむことができるんじゃないかと思います。

あと、暮らしの中でいちばん大切なのは、長い期間に渡る除雪作業です。今は全部を自分でするのではなく、一定の場所に雪を集めて、それを近所の人に頼んで除雪機で遠くに飛ばしてもらっています。自分で全部するのか、地域の人に頼むのか。それを前もって決めて、近所の人と協力することが大切だと思いますね。





- 02 -

移住者プロフィール

LADE clothing LTD

会田 喜文 さん

令和3年8月に移住

— 移住して2年、尾花沢市に想うこと —

家族とともに移住してきて今年の8月でまる2年。鶴子にある花笠高原スキー場の近くで、オーダーメイドの帽子専門店を開いています。その前は飯豊町に10年住んでいたのですが、子供が自分の足でスキー場に歩いて行ける場所に移住したいと思っていました。東北の中で理想の場所を探していたところ、たまたま滑りに来ていたこの花笠高原スキー場がまさにそういった場所で、ここで暮らしていきたいと考えるようになりました。

「果たして雪はどの程度なのか」というところが気にはなっていましたが、実際に住んでみると、尾花沢、特にここ鶴子は凄いですね。

ただ、雪がたくさん降ってスキー場が賑わうおかげで自分のお店にお客さんも沢山来てくれます。家族も「スキーを滑れた方がいい」と、除雪は大変ですが喜びの方が大きいです。

市の中心街から遠く少し不便になることも分かっていたので、生協を利用したり、なるべくまとめ買いするようにしています。

— 大好きなスノーボード。好きな時に好きなだけ —

最近の話だと、子供たちのスノーボードがとても上達したことは、とても嬉しいことでした。もともとそれなりに滑れたのですが、大会でも堂々と滑れるレベルまで上がりました。ゲレンデに歩いて行けるので、子供たちは自分たちが滑りたい時に毎日のように滑っています。

今年は大会に出て、結果もついてきているので、自信がついたようです。周りから認められて、本人たちはかなり嬉しく感じていました。

— この地を目指して —

2年目の今年は、連休などで主に関西から尾花沢を訪れ、スキー場で滑り、自分の店に寄ってくれる人が増えていきます。とてもうれしいですし、来てくれた人もみんな喜んでくれています。このスキー場のデザインと周りの地形が素晴らしいことはもちろん、日本中でこれだけどんどん雪が降る場所は少ないですし、今日だってパウダースノーでとても雪の状態がいい。こういう環境がコンスタントにあるスキー場なんです。

混んでいるところだと、リフト開始前から沢山の人が並び、開始からあっという間にバーンが台無しになってしまいます。そのために我先にとの争いが生じてしまいます。人気のある大きなスキー場だと、特に降った日はリフト開始前か

ら長い列ができるのは当然の光景ですし、営業開始とともにたくさん滑ったラインが入っていきます。そこにはある程度の競争が生まれるのでのんびりゆったりしている暇はありません。

ここでは争うことなどなく、自分のペースで自分のラインを描けます。誰も触れていないノートラックのパウダースノーを最初に滑るのは最高の気分ですよ。そして毎日雪が降るので、その都度リセットされて新たにパウダースノーを楽しめるんです。こんなところ、ここしかないですよ。日本一の魅力だと思います。こんな滑る人にとって最高の条件があるのは本当に珍しいことですし、日本でもかなり希少な場所だと思います。



— いいことは、みんなで共有したい —

実はすでに始めているのですが、子供向けのスノーボード教室をナイターで開いています。自分の子供たちが毎日滑ることで急成長したのを見て、「いいことはみんなで共有したい」という想いが芽生えました。部活があるわけでもないし、多少大きなスキー場でないとスクールもないので、始めるハードルは高い。そこで近所のスキー場に歩いて通える子供達に、スノーボードを好きになるキッカケを作ってあげたいのです。そして滑れるようになり、スクールを卒業した後も「滑りを通したコミュニティ」で繋がってられる。

— 滑れない人であっても楽しめる場所に —

受講した子供たちの反応はとても良いです。リピート率は100%。次に来る時は友達を連れてきてくれたり、一緒に来ているお母さんたちも「自分も始めてみたい」と言ってくれたりしています。自分としてもかなりの手応えを感じ取っており、ここでスノーボードをやる人がどんどん増えていったらいいなと感じています。

スノーボードだったりクロスカントリーだったりを楽しむにきてほしいし、滑れない人であっても楽しめる場所になっていければいい。夢の実現に向けていろいろな人たちと力を合わせて取り組んでいきたいなと思っています。



— オールシーズン、いつでも楽しんで暮らす —

夏は山歩きをしたり、自転車やスケートボードも楽しんだりします。また、徳良湖にパンプ・トラックができたので、夏はそこでスケートボードを楽しんだりしています。広々とした場所で、のびのびと遊べるのはいいことです。

この辺りのうまい夏の遊び方を伝えて、冬のスキー場だけでなく、夏もこんなにいいところであることをアピールして、それをめがけて来てもらえればと思います。

— こんなに特長を持ったまちは、そんなにはないと思いますよ —

なんとも言いますが、ほんとうに雪がたくさん降るところです。大変なところもあるんですけど、こんなに特徴を持ったまちってそんなにはないと思います。よそが降っていなくともここだけは降っている。そんな環境だからこそ、せっかくなので自分なりの楽しみを見つけてもらいたいですね。僕のように「雪は降る方がいいんです」「スキーやスノーボードが好きなんです」という人に来てもらえれば、いちばんいいと思います。

おばなざわ暮らしの 楽しみ方

How to enjoy
your life in
Obanazawa



アウトドアを存分に楽しめる環境がここに！

パウダー争いのないゲレンデで存分にウィンタースポーツを楽しむ！
雪に困らない尾花沢だからこそ実現可能な、真っ白いゲレンデ。自然と一体になって思うまま滑走するのはサイコーに気持ちいい！
スキー・スノーボード・スノーモビルなど、ウィンタースポーツ大好きな人からは「夢のような環境」との声をよくいただいています。
冬以外でも、徳良湖ではキャンプ、スケボー、ヨットなどを楽しめます。イベントやお祭りも多いので、休みの日の時間の使い方に悩みますね！



地元の人たちって休みの日は何してるの？

◆ 市内では？ ◆

聞いてみると、「登山」がちらほら。登山向けの山がいっぱいあるので、老若男女問わず人気の趣味です。

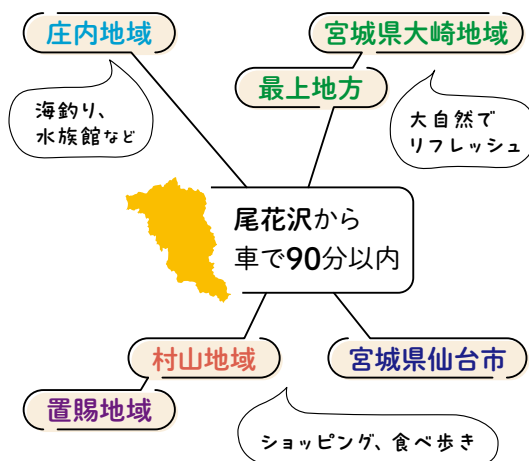
高い建物がなく、車通りも少ないので見晴らしがよい場所が多く、散歩、ツーリングやドライブも定番。山あいを抜けて隣町までキャンプに行くなど目的を持って旅をするのも、四季の移ろいを眺めながらあてもなくドライブするのもいいですね。

◆ 市外に出かける時は？ ◆

尾花沢市は県内の真ん中に位置しているので、県内であれば比較的気軽に日帰り旅行ができます。

海釣りや美味しい海鮮を求めて庄内地域に行く人もいれば、ラーメン大国として知られる本県中のラーメンを食べつくす猛者も。隣の宮城県にショッピングに行く人もいます。いずれも車で90分圏内。

道中の休憩や寄り道も自由自在、何があるのかな？と好奇心の向くままに探索するのもまた楽しいですね。



やっぱりお風呂は、いいよね。

国内外に圧倒的知名度を誇る銀山温泉以外にも、市内各所にゆっくり足を伸ばせる温泉や湯処があり、日々のよい気分転換になります。

「どれ、風呂いぐが!」は、仕事終わりの尾花沢あるあるです。



定番の日帰り温泉リスト

	花笠の湯	ふくの湯	花笠高原荘
営業時間	春～秋 8:00-21:30 冬期間 9:00-21:00 第3水曜定休	8:00-21:00 第2火曜日定休	9:00-19:00
入浴料金	大人400円 小人100円		
魅力	サウナ、露天あり 食堂、売店あり 宴会可	サウナあり 食堂、売店あり	薬湯風呂あり 宴会、宿泊可

※入場は終了時間の30分前までとなります。

※時期等により営業日や入場可能時間が異なる場合があります。

お越しの際は、あらかじめホームページ等でご確認ください。

贈答には困らない！？ 尾花沢の特産品！



Part-1 尾花沢すいか

熟練の達人から気鋭の若手まで、尾花沢の農家の皆様が丹精込めて作る、全国トップブランドのすいかです。

夏すいか生産量日本一!困ったらこれ!ウソのようなホントの話、すいかが好きじゃない人もすいか好きにさせたというロコミも。



Part-2 雪降り和牛 尾花沢

「雪」降りの名が冠するとおり、うま味と脂が口の中で雪のように溶けだします。尾花沢の厳冬の中で高い技術を持った生産者のもとにすくすくと育った自慢のブランド牛で、美しいサシは贈答映え間違いなし。

例年8月中旬には「尾花沢牛肉まつり」が開催されており、最高級の尾花沢牛を堪能できます。



Part-3 尾花沢そば

山形県内でも作付面積が最大の尾花沢が自信をもってお届けするブランド。尾花沢産の原種「最上早生」の種子は、交雑を避けるために市内高地の牧場で隔離栽培されています。甘み、香りともに豊かで、それでいてスルスルと食べやすい食感もまた魅力。

秋の新そば祭りでは、引き立て、ゆでたて、打ち立てのそばに感激。

工芸品、お酒などここに書ききれない銘品もたくさんあるので、尾花沢にお越しのうえ、存分に楽しんでください!

新規就農を考えている方へ！

楽しく儲かる農業、
始めてみませんか？

就農への\\5//ステップ

コントロールできない自然と向き合い、自らの腕一本で稼ぐ農業。

尾花沢市ではそんな大変な仕事だからこそ、「楽しく稼いでもらいたい！」という想いで支援をおこなっています。まずは、どんな農業を目指すのか、じっくり自分と向き合うことが大切です。

STEP 01 就農相談

◆情報収集…農業を始めるための基礎知識を収集

◆方向性の
しぼりこみ



農業をイメージする



やってみよう



絞り込み



STEP 02

農業短期体験へ

作る作物や就農する地域

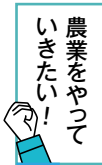
STEP 02 農業短期体験

◆環境、適正の確認…農作業を実際に体験し、環境や適性を確認する

◆方向性の
決定



農業を体験する



栽培する作物を決定



STEP 03

農業研修へ

STEP 03 農業研修

◆栽培技術の習得…市内の先進農家で最長2年間研修を行います

研修中のアドバイス

- 時間厳守や朝晩のあいさつ、返事など基本的なマナーを守り、研修先農家との信頼関係を築きましょう。
- 素直な心で指導を受けることが大切です。受け入れ農家などとの良好な関係はあなたの「宝物」になります。
- 「研修日誌」は、毎日かかさず付けるようにしましょう。独立後には自分だけのオンリーワンの参考書になるはずですよ。



同時進行

STEP 04 就農準備

◆農地、機械などの確保

◆営農計画(青年等就農計画)の作成



STEP 05 独立就農

◆認定新規就農者として独立就農をスタート

就農するということ…

なぜ農業をやりたいか、どんな農業をやりたいかを明確にし、強い意志をもって就農しよう！

農業への理解度

農業をやりたいという願望だけでは実現しません。メリットばかりにとらわれず、自然災害や異常気象などのリスクがあることも理解しましょう。

計画性

目標をしっかり持ち、目標に向かって営農計画をたて行動することが必要です。そのためには明確なビジョンを持ちましょう。

コミュニケーション力

研修先農家や、同じ研修生など、地域に「良き相談相手」を見つけられるようコミュニケーション力を高めましょう。

家族の理解と協力

居住環境や生活環境が変わり心細くなったりする場合に支えになるのが家族です。そのためには就農に対して家族からの理解を得られることが大切です。

移住 × 就農



- 03 -

移住者プロフィール

高橋 晋矢 さん

令和2年2月に移住

スイカ農家として独立して2年目

— 尾花沢市との出会い、就農のきっかけと準備 —

前の仕事が忙しく、転職を考え始めていました。しかし、普通に転職するのも面白くないので、ずっと興味を持っていた農業をやってみようと、農業系の移住フェアに行きました。色々な作目や地域を見ていましたが、尾花沢の若いスイカ農家の方とお話して「若い農家でも活躍できるんだ」と思ったことがきっかけでした。研修面で丁寧なことはもちろん、研修中は収入が絶たれるので、就農助成が手厚いことも大きな理由でした。また、移住前には、初期投資にはいくら必要なか調べて、会社員の内に貯金する算段を立てていました。具体的な生活のイメージをもちながら、入念に準備することが大切だと思います。

— 研修期間から、やる気と自信がありました —

2年間の研修期間中はずっと「やってやるぜ!」という気持ちでした。とても気合が入っており、根拠のない自信もありました。「疲れた」「いやだ」の気持ちは全くなし。ただただ「楽しい、楽しい!」でした。「全くスイカを出荷できなかったらどうしよう」という不安もありましたが、本気で挑んだ結果が仮に上手くいかないとしても、それは決して失敗ではない。「早いうちに学びの機会を得ることができてよかった」と思っていますし「やる気」はずっと持ち続けています。

1年目は作業の内容や手順を覚え、その意味を理解する。2年目は1年目の内容に加え、スケジュール管理や先々を見通した仕事の組立て方や経営感覚を養う。研修場所であっても、自分の畑だと思って過ごしていました。今思っても、2年目は独立に向けてさらに真剣になり、質問がより具体的で濃い内容になっていたかなと思います。受入農家さんとは今でもよく話しますし、お互いに畑を見にいたりしています。本当に面倒をよく見てもらっていて、ただただ感謝です。プライベートの趣味も合うので、よく一緒に出掛けています。

— 自分らしく、純粋に農業を楽しんでほしい —

一番楽しいのは、成長が目に見えるという点。スイカの成長をダイレクトに感じるのが楽しいですね。作業手順や内容を戦略的に組んで、結果がついてきた時は、本当に面白いなと思います。農業には収穫という明確なゴールがあり、結果は数字で出ます。それが自分の性格には向いているようです。達成感があるし、次も頑張ろうという気持ちになります。

今は就農前以上に自分の思うままに生きて、自分のやりたいことをやっています。目の前の農業に自分が納得するまで存分に考える。自分の中では「失敗したな」と思うこともありますが、それは自分の問題であり、他人に左右されることがなくなりました。今後は家族でできる範囲で、無理なく面積を増やして収入を上げていきたいですね。

スイカは収穫が終われば空く時間が多いので、そこに自分のやりたいことや趣味を当てて、そこに向かって頑張る。「頑張れば楽しいことが待っている」と、メリハリをつけられると思います。今の若い人たちに合っている働き方ですし、自信を持って飛び込む価値のある、熱い職業だと思っています。正直、伸びしろしかない分野ですから、純粋に楽しんでほしいですね。

よく寄せられる移住のギモン、 まとめました

定住応援課が
お答えします!



マイカーはやっぱり必要？
公共交通機関はどのくらいあるの？



市内各所と中心部を繋ぐ循環バスがありますが、都市部に比べると本数が少なく、日常生活の移動を公共交通機関のみでおこなうのは難しいと思います。

住む場所にもよりますが、生活に必要な施設は徒歩圏内に収まらないことが多いです。冬場は自転車も使えないため、マイカーはあった方が断然便利です。車通りは多くないので、安全運転を心がければ、過度に不安になる必要はありません。



雪かきはどのくらいしないといけないの？



雪マークの翌日はほぼ確実に必要です。また地区によっても除雪のやり方が違うので、近所の人に聞きながらおこなうのがよいでしょう。こう聞くと大変そうに思えますが、「近所の方が親切に教えてくれて、効率的なやり方を学べたのでさほど苦ではありません！」という方が多く「運動になるので移居前より健康になりました」という嬉しい言葉もいただいています。



移住者向けイベントはあるの？



毎年、移住者交流会を開催しています。そのほか、移住・交流イベントを転入者の方にお知らせするサービスも実施しています。

移住者向けのイベントや情報を定期的に仕入れたい方はぜひご利用ください。



移住の具体的な相談はコチラへ

尾花沢市オンライン移住相談

Zoom を活用したオンライン移住相談実施中！どんな事でもご遠慮なくお問い合わせください！

- 相談時間 開庁日の午前9時から午後5時まで
(最終開始時間は午後4時30分)
夜間・休祝日：応相談
- 申込方法 「teiju@city.obanazawa.yamagata.jp」あて、以下の必要事項を記入し、メールを送信ください。後日担当者から相談日時を返信します。
予約状況などによりご希望に添えない場合は、その旨連絡します。
ア. 相談者の氏名
イ. 日中連絡のつく電話番号
ウ. お住まいの都道府県、市区町村
エ. 相談希望日、時間帯（相談当日の3日前まで、複数日指定ください。）

田舎暮らし短期体験、オーダーメイド型移住体験ツアーのご案内

移住を検討している方、ぜひ一度来てみてください！

助成内容

- 宿泊費 指定の宿泊施設に滞在中、1人1泊あたり5,000円を助成（ログハウス利用の場合は1棟あたり10,000円上限）します。1回あたり1泊2日以上4泊5日以内で、年度内3回を限度とし、年間助成限度額は60,000円です。
- 交通費 レンタカーなら1日2,000円、タクシーなら1日5,000円を助成します。1回の訪問につき5日間が上限で、年度内3回まで、年間助成限度額は30,000円です。

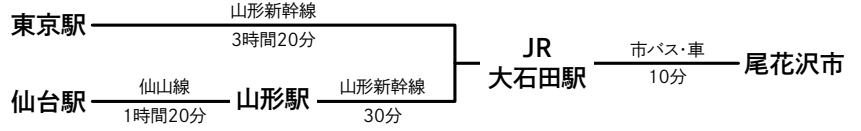
||||||| オーダーメイド型移住体験ツアー |||||

「尾花沢市での暮らしを体験したいけど、どこで何ができるかわからない！」
そんなあなたに、定住応援課と相談のうえ本市を体験できるツアーを提供します。各種体験に要する費用は市が負担します。時期等により内容は異なりますので、お早目のご相談を！

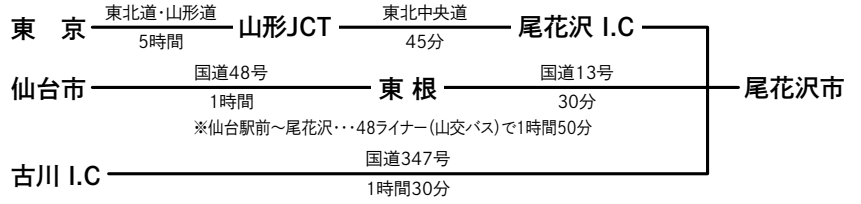
- 申込方法 「teiju@city.obanazawa.yamagata.jp」へ、以下の情報を記入しご相談ください。
ア. 相談者の氏名
イ. 日中連絡のつく電話番号
ウ. お住まいの都道府県、市区町村
エ. ツアー実施希望時期

尾花沢市へのアクセス

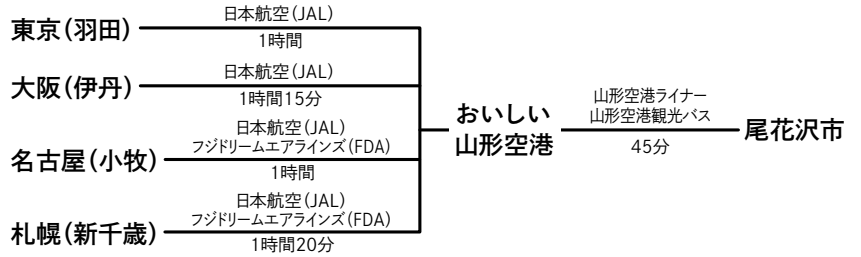
JR利用



自動車利用

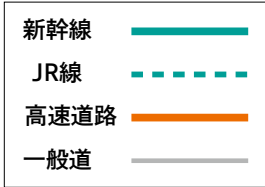
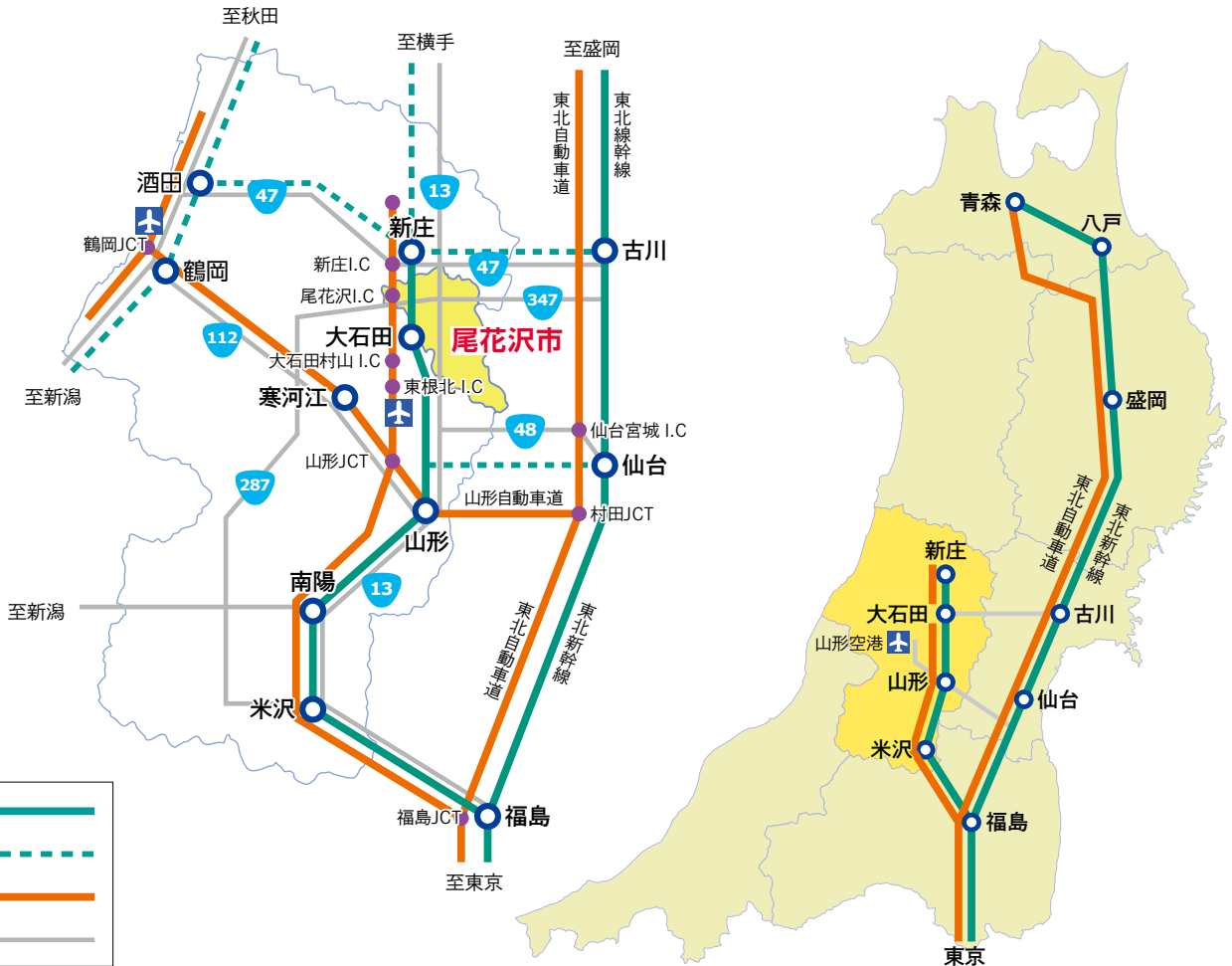
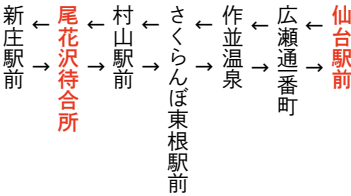


飛行機利用



仙台駅からのバス利用

山交バス株式会社/特急48ライナー
※仙台駅前23番より乗車



尾花沢市定住応援課

〒999-4292 山形県尾花沢市若葉町一丁目2-3
TEL 0237-22-1111 / FAX 0237-22-3756
◇ <http://www.city.obanazawa.yamagata.jp>
◇ E-mail t_suisin@city.obanazawa.yamagata.jp



移住・定住サポートサイト
OBANENNEGA
オバネネガ



空き家バンク



新規就農者
援助



子育て応援情報サイト
おがぁ〜れ